令和７年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属：	スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格：	専任講師
氏名：	小泉　夏子

研究課題名	1960年代の文芸批評と母性言説に関する研究
研究目的及び研究概要	【研究目的】 母性や、その拒否としての少女性は、江藤淳『成熟と喪失』(講談社、1967年)や宇野常寛『母性のディストピア』(集英社、2017年)などに代表されるように、同時代の文化を解読する際の枠組みとして広く用いられてきた。政治・近代史との関連で構想されたこうした女性イメージは、実際の女性の言動を規制する基準点ともなっている。本研究は、母性や少女性を視座に1960年代以降の文芸評論を調査し、批評の政治性自体を問いながら、その構造を明らかにすることを目的とした。 【研究概要】 本研究は、1960年代以降の文芸評論を調査し、その特徴を整理するとともに、母性や少女性を視座に据えて文化的構図の描出を目指した。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	【研究の進捗状況】 1960年代以降の文芸評論を調査・収集し、分析を行った。 【得られた成果】 集めた資料をもとに1960年～80年代の批評を分析した結果、「母性」や「少女」といった女性イメージが、どのように形成されていったかを明らかにすることができた。 【今後の課題】 今後は、本年度明らかとなった戦後の批評言説の特徴を踏まえ、批評において政治・近代史との関連で構想される女性イメージが、実際の女性の言動にどのような影響を及ぼしたかという点について考えてみたい。